

思う存分言った

水俣病患者家族 株主総会から帰る

二十八日大阪で開かれたチツソ（本社東京、江頭登社長）の株主総会に出席した水俣病患者家族十三人と、付き添いの水俣病市民会議の一行が三十日午前九時五分水俣駅特急行「そてつ1号」で無事帰ってきた。

一行は二十五日水俣市を出発、金沢巡礼姿で総会に乗り込んだ。このあと高野山に参拝、二十九日午後八時三十分大阪発の下り「明星1号」で熊本に到着、熊本から「そてつ1号」に乗り継いだもので、駅頭には留守家族、新日

窒労組員など支援団体が出迎えた。定刻より五分遅れて列車は到着したが、出発の時と同様の白装束の元気な姿を見せると、出迎えた人たちが駆け寄って肩をたたき「よくやった」と喜び合った。総会に出席した患者たちは「思う存

分言うことは言ってきた」と満足げな表情だった。駅構内で、日吉フミノ市民会議会長は出迎えの人たちに「一人の病人もなく無事帰りました。総会のもようがこちらにはどう伝わっているか知りませんが、かねてよ

り考えていたことは、その目的を達した。江頭社長には頭を下げさせむび状も説ませた。全国からの支援がありがたかった。一方、水俣市民が立ち上がったとこれないことを残念に思う。会場では石環団体でも患者に席を譲ったりして患者のことを思っていた。この詠歌を歌ったことで総会会場は水を打ったように静かになり効果的だった」と語った。このあと最後のご詠歌を歌って散会した。

帰って来た水俣病の患者、家族たち（水俣駅で）

なお同日は渡辺薬蔵副会長ら五人が二十九日東京での公害メーデーなどに出席し、帰りは遅れた。